

## 青年の社会的自立と教育

(小・中・高・特支教員対象：定員60名)

時間	内容	講師
9:20～9:30 (10分)	ガイダンス	小林 千枝子
9:30～10:50 (80分)	〈若者〉と〈青年〉の歴史 思春期・青年期は心身が大きく変化する時期であり、アイデンティティの獲得へ向けて、悩み、模索する。しかし、このような青年観は、親たちとは違った生き方が可能になった近代になってから成立したものである。生き方や暮らしぶりの基底に位置づく人口構造の変動や「子供組」・「若者組」・「娘組」の機能にも言及しながら、日本における青年期の成立過程と学校教育が果たした役割等を考察する。	小林 千枝子・木村 直人
休憩 (10分)		
11:00～12:10 (70分)	高度成長期以後の〈青年〉の生き方の変化と現代的課題 戦後改革のなかで日本の制度面が大きく変わったが、人々の暮らしや青少年の生き方の転換期は高度成長期であった。1970年代半ばに高校進学率が90%を越え、準義務教育としての高校教育が定着した。その背景には「働きながら学ぶ」定時制高校の果たした役割も大きかった。しかし、現在、定時制高校はいわばセーフティネットとして位置づけられ、大学や短大への進学率が50%を超える高学歴社会となった。その一方で大人になりきれない者たちの広がり指摘され続けてきた。そうしたなかで18歳選挙権が成立したのである。	小林 千枝子・木村 直人
12:10～12:30 (30分)	テスト	小林 千枝子・木村 直人
昼休み (50分)		
13:20～14:40 (80分)	18歳選挙権の成立と主権者教育 18歳選挙権の成立と学校における主権者教育について、全国の実施状況や国政選挙における投票率などを踏まえて、学校の現状や問題点等を伺いながら、講義する。 2015年の公職選挙法改正により、いわゆる18歳選挙権となったことから、主権者教育の充実が求められている。「主権者教育の目的は、単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う」ことだけの問題ではない。「小学校の段階から、各教科、総合的な学習の時間、特別活動等学力を身に付けること」(検討チーム中間まとめ)であり、高校や社会科・公民科だけでなく学校全体で取り組むものである。	木村 直人・小林 千枝子
休憩 (10分)		
14:50～16:20 (80分)	演習 消費者問題、環境問題、税金・年金問題等、世代間で利害の対立する現代的課題を題材にして、グループに分かれ議論した後、その結果を全体に発表し、全員で課題を共有する。 講義と演習を通して、主権者教育実施上の課題を体験的に学んでいただき、それが各学校で取り組む際のヒントになれば幸である。	木村 直人・小林 千枝子
16:20～16:40 (20分)	テスト	木村 直人・小林 千枝子
16:40～16:50 (10分)	アンケート	小林 千枝子・木村 直人